

平成28年度行政評価シート【個表】

平成 28 年 6 月 30 日

評価対象事業	評価者	交通計画課 担当課長 野中 宗範、若林 篤
まち-05 交通体系整備事業	■ 自治事務 □ 法定受託事務	主管課 交通計画課 関連課
総合計画上の位置付け	分野	総合交通
	施策の方針	道路・交通体系の検討

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全で快適なまちをめざした交通環境をつくりだすため
効果	公共交通機関における利便性の向上を図るとともに、慢性化する交通渋滞の解消や交通事故の減少を図る

2 平成27年度に実施した事業の概要

・鎌倉地域の休日の交通渋滞を解消するために、市民・交通事業者・関係行政機関等で構成する「鎌倉市交通計画検討委員会」を開催し、市と地域住民・関係機関との協働による安全で快適な歩行環境の実現をめざすとともに、策定後経年した地区交通計画を検証した。 ・鎌倉市交通計画検討委員会特別委員会(国の行政機関等で構成)の運営及び自動車利用の抑制策に関するシステム設計や法的な条件整理に関する調整資料の作成を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	26年度決算	27年度決算	データ区分	28年度当初予算	備 考
人 口	177,464人	177,243人	人 口	176,869人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
世 帯 数	80,368世帯	80,676世帯	世 帯 数	80,928世帯	
事業の対象者数			事業の対象者数		
決算値(千円)	14,971	11,712	当初予算(千円)	56,152	
国県支出金			国県支出金		
地方債			地方債		
その他			その他		
一般財源	14,971	11,712	一般財源	56,152	
人員配置数	2.3	2.4	人員配置数	2.4	
人 件 費(千円)	17,415	18,452	人 件 費(千円)	18,974	
総事業費(千円)	32,386	30,164	総事業費(千円)	75,126	
市民1人当りの経費(円)	182	170	市民1人当りの経費(円)	425	
対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	4. 市民生活に寄与するが、担い手として、国・県・民間等での実施も可能
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	2. 事業の方向性は適切であるが、手法は見直す必要があり、あまり貢献できていない
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済 ○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 市民、商工業者、交通事業者、関係行政機関等

事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ⇒ ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直し内容の種類	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他	見直し内容	
					事業へ統合

予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する ☐ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	・平成28年度に実施する自動車交通の抑制策を検討するために必要な基礎調査となる交通量調査、アンケート調査等に引き続き、これらの調査結果を踏まえたシミュレーションや社会実験の実施に向けた検討が必要である。 ・財源については、社会実験制度等、国・県の補助制度の活用について更に検討する。
----------	---	--------------------	--

総評(評価に対する考え方、根拠等)	・鎌倉地域の交通渋滞解消に向けた自動車交通の抑制策等の検討については、平成8年に20の施策を位置付け事業推進を図り、一定の成果は出ている。しかし、概ね20年が経過する中で、市内の道路混雑状況は大きく変わっており、その解消に向けた抜本的な対策が必要で、交通渋滞の解消に向けた事業の実施に対する市民ニーズは高く、事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい。 ・鎌倉市交通計画検討委員会や専門部会において、市民、商工業者、交通事業者等とともに、施策の検討や社会実験を実施するなど、市民と協働し事業展開を図っている。 ・自動車交通抑制策の一つである(仮称)鎌倉ロードプライシングについては、鎌倉市交通計画検討委員会内に、新たに鎌倉市交通計画検討委員会特別委員会等を設置し、法令や課金方法などの更なる検討を行い、具体的な課題解決に向けた方向性を見極めていく。
-------------------	--

平成27年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	・新規循環バスの社会実験では、利用者アンケート等の結果から満足度も高く、公共交通への利用促進が期待できることが把握できたが、本格運行に向けて、路線バスの再編や安全性を確保するための踏切道改良、交通誘導員の複数配置等の課題も明らかになった。 ・自動車交通の抑制策(ロードプライシング)の実施に向けた法制度や課金の技術的方法、事業費の確保、実施主体等の課題について検討する必要がある。 ・休日の鎌倉地域では、目に見えて交通渋滞が解消されておらず、市民意識調査にその成果が現れていない状況であるため、引き続き、交通渋滞の解消を目指す。		
課題解決のために 行った平成27年度の 取組	・新規循環バスの社会実験の結果等を踏まえ課題を抽出したが、課題解決のための検討は進まなかった。 ・鎌倉地域の交通渋滞の解消に向け、「鎌倉市交通計画検討委員会」を1回、同委員会専門部会を5回開催した。 ・「鎌倉市交通計画検討委員会」及び「鎌倉市交通計画検討委員会専門部会」において、市民自らがこれまでの自動車交通に関する考え方や利用方法を見直すべきとする市民憲章(案)の検討を行った。 ・ロードプライシングの法的な課題や課金方法等を検討する「鎌倉市交通計画検討委員会・特別委員会」及び「鎌倉市交通計画検討委員会・特別委員会幹事会」を開催した。		☐ 解決 ☐ 一部解決 ☒ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた中間とりまとめにおける20の施策について、引き続き、検討を行うとともに、自動車交通の抑制策(ロードプライシング)の実施に向けた法制度や課金の技術的方法、事業費の確保、実施主体等の課題について検討する必要がある。		

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

比較事項									
団体名									
他市実績									

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う 他市比較に関する 考え方									
------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値									
	実績値									
	達成率									

指標の内容						単位	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31		
	目標値								
	実績値								
	達成率								

指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										

当該事業実施に伴う 指標の推移に関する 考え方									
-------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

● 事業に関する特記事項

☒ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☐ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
---	---